

# 第 6 章

## 子どもの学年段階による 母親の意識・実態の違い

邵 勤風



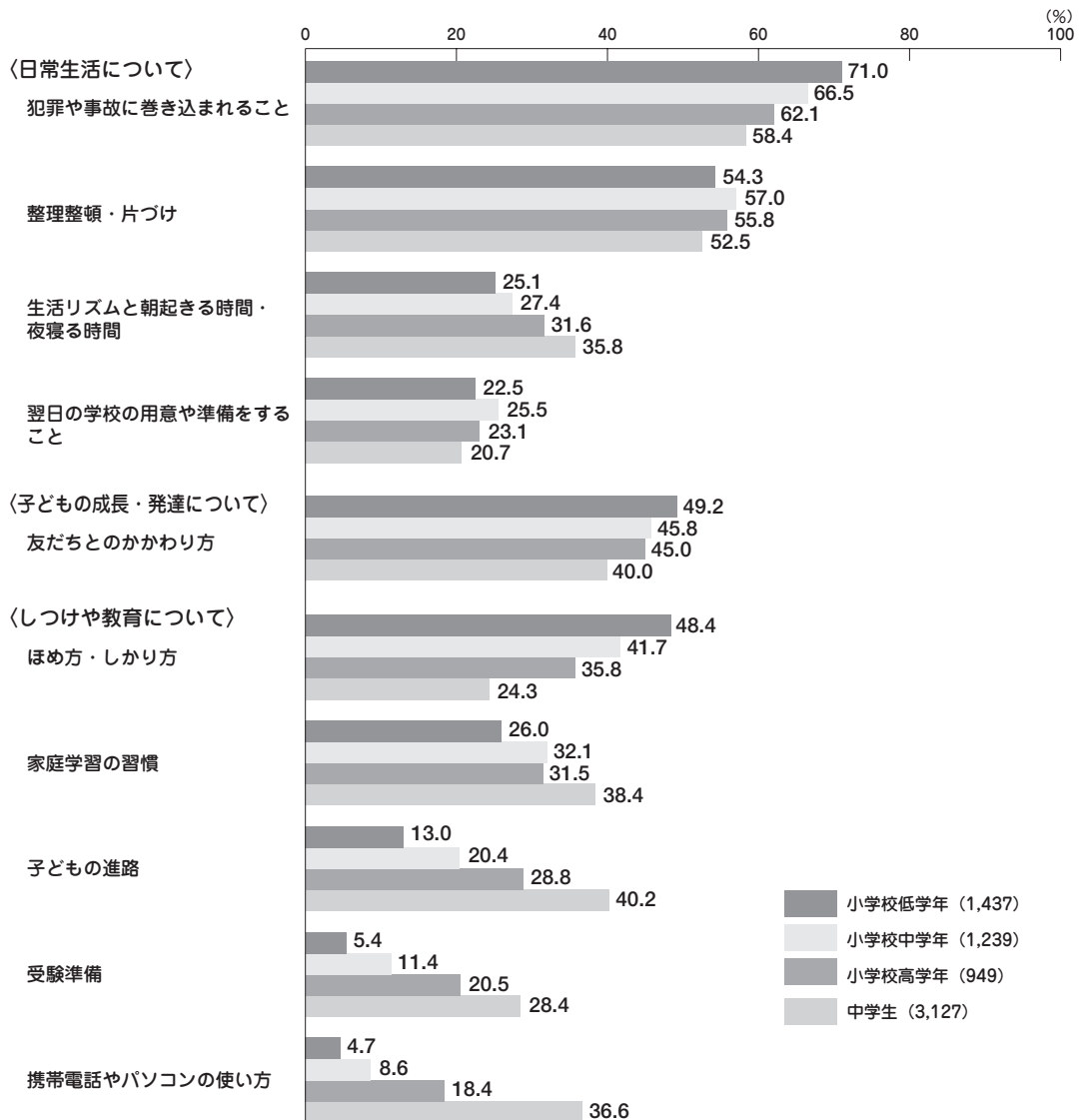


## ● 子どもへのかかわり

「子どもと一緒に出かける」(78.8%、「よくある」の%、以下同)、「子どもに一日のできごとを聞く」(73.1%)、「子どもと友だちや先生について話をする」(61.2%)、「子どもと一緒に遊ぶ」(23.2%)など、普段の生活では、親子が一緒に行動し、コミュニケーションがよくとれている様子がうかがえる(図6-1-4)。

子どもの勉強に対しては、7割弱が「学校のテストの点数を確認する」、6割弱が「子どもが勉強していて分からないところを教えてあげる」、1~2割が学校や夏休みの「宿題を手伝う」と回答している。子どもの教育については、意識の面だけではなく、実際の行動の面でも、子どもの学習に積極的にかかわっていることがわかる(図6-1-5)。

図6-1-1 子育ての悩み・気がかり(学年段階別)



注1) 複数回答。38項目中10項目を図示した。

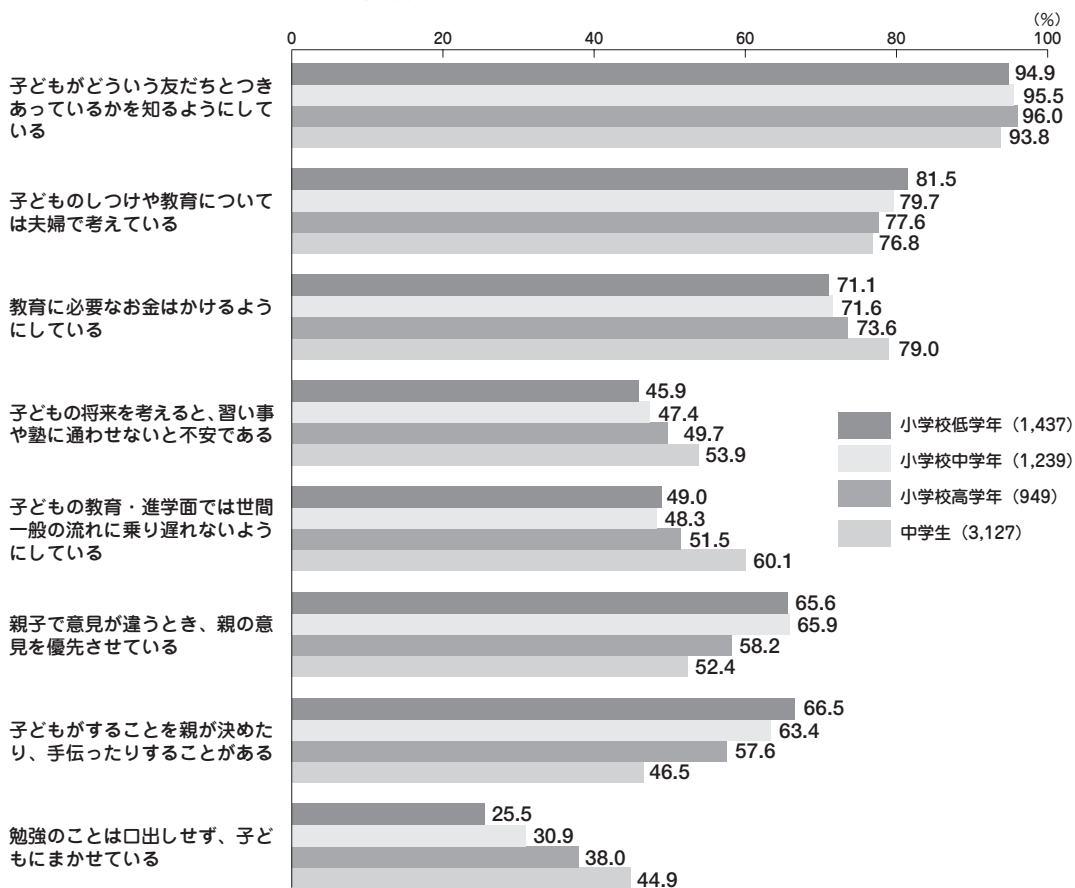
注2) ( )内はサンプル数。

表 6-1-1 日ごろの生活習慣（学年段階別）

	小学校低学年 (1,437)	小学校中学年 (1,239)	小学校高学年 (949)	中学生 (3,127)
決まった時間に起床・就寝すること	60.7 [11.5]	63.1 [13.0]	65.7 [16.6]	69.5 [22.1]
あいさつやお礼を言うこと	76.5 [13.4]	86.1 [21.9]	89.0 [30.1]	92.3 [39.6]
食事のマナー	72.1 [ 9.3]	78.4 [11.7]	80.9 [15.4]	88.2 [25.5]
歯磨きの習慣	75.4 [23.6]	79.7 [29.9]	81.4 [41.7]	88.6 [58.3]
遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓	48.3 [ 7.5]	49.4 [ 7.5]	51.8 [13.1]	56.0 [18.3]
家事の手伝い	59.0 [ 9.0]	62.6 [10.8]	62.2 [14.5]	58.0 [15.7]
翌日の学校の用意や準備	82.9 [30.8]	84.7 [40.5]	88.1 [49.6]	87.4 [55.9]
約束を守ること	74.1 [18.2]	77.7 [22.0]	78.5 [25.4]	78.5 [28.1]
乗り物や路上などでのマナー	83.6 [17.5]	89.4 [25.3]	93.2 [34.9]	95.3 [46.3]
ていねいな言葉づかい	60.2 [ 7.7]	71.4 [11.1]	76.7 [16.4]	78.5 [22.2]
計画的に勉強すること	32.9 [ 5.7]	40.1 [ 6.6]	51.7 [13.0]	50.9 [13.9]
学校からのプリントを親に見せること	84.3 [41.3]	79.1 [37.3]	79.4 [36.1]	72.4 [31.6]

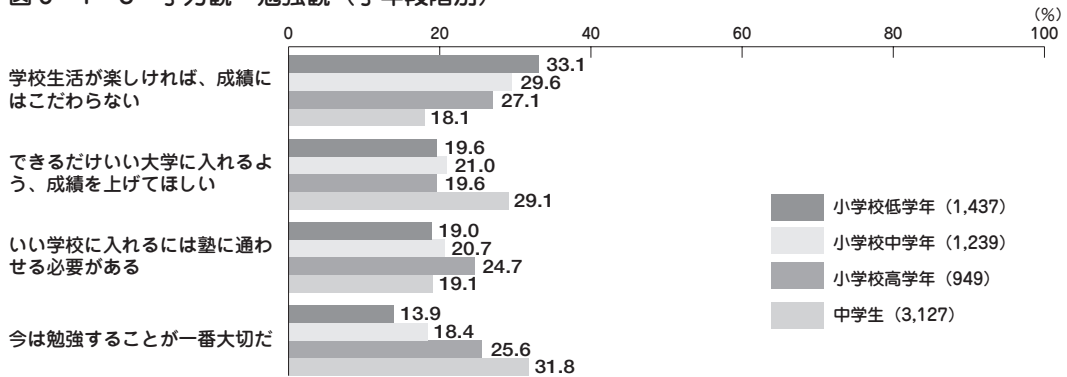
注1) 数値は「完全に一人でできる」+「だいたい一人でできる」の%。( )内は「完全に一人でできる」の%。  
注2) ( )内はサンプル数。

図 6-1-2 家庭の教育方針（学年段階別）



注1) 数値は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。  
注2) ( )内はサンプル数。

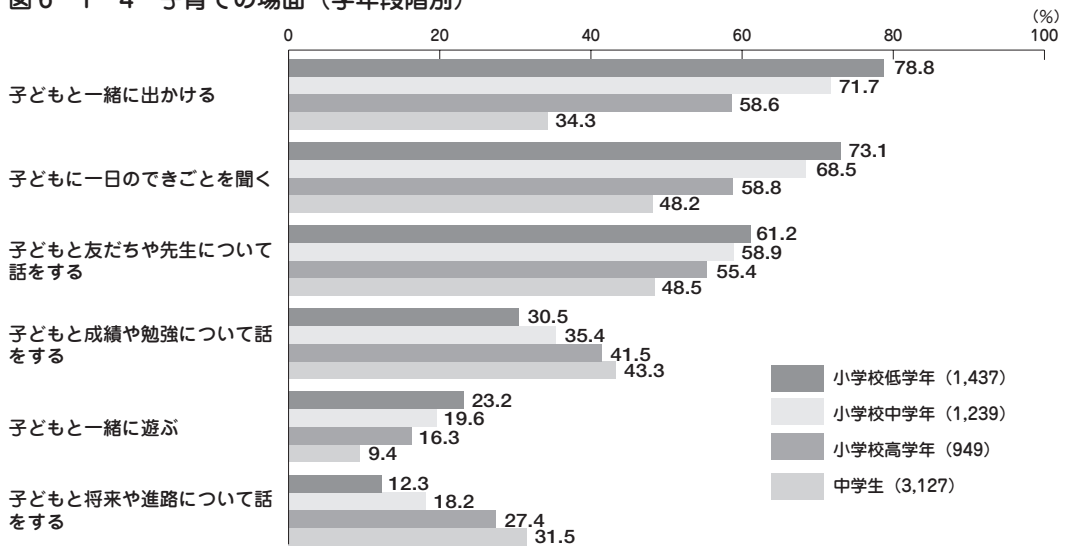
図6-1-3 学力観・勉強観（学年段階別）



注1) 複数回答。10項目中4項目を図示した。

注2) ( ) 内はサンプル数。

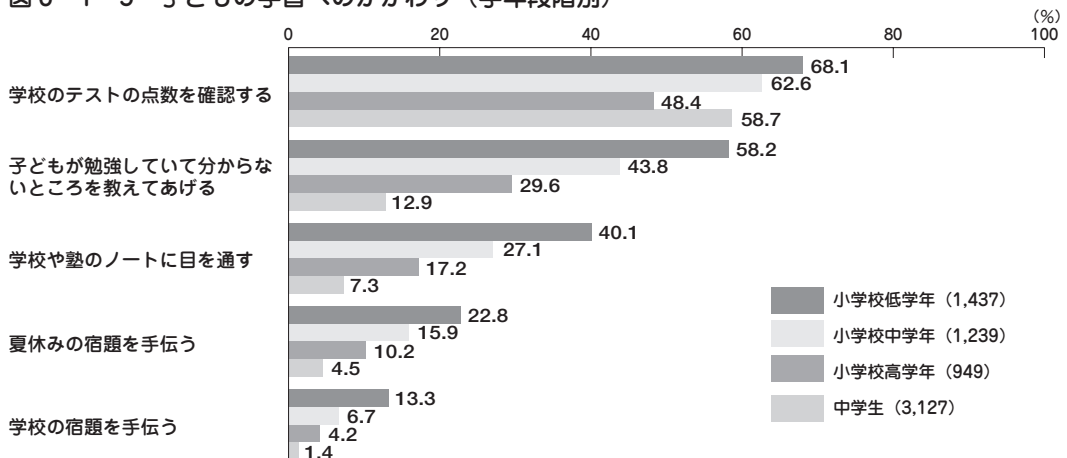
図6-1-4 子育ての場面（学年段階別）



注1) 数値は「よくある」の%。17項目中6項目を図示した。

注2) ( ) 内はサンプル数。

図6-1-5 子どもの学習へのかかわり（学年段階別）



注1) 数値は「よくある」の%。8項目中5項目を図示した。

注2) ( ) 内はサンプル数。





手伝ったりすることがある」(57.6%)と回答する母親が減ってきている (p.114 図6-1-2)。

子どもの学力や勉強に対する意識では、25.6%の母親は「今は勉強することが一番大切だ」(低学年13.9%、中学年18.4%)、24.7%の母親が「いい学校に入れるには塾に通わせる必要がある」(低学年19.0%、中学年20.7%)と考えている。このような意識とこの時期の通塾率や教育費の支出の増加は関連がある(3章を参照)と考えられる。いずれにしても、この時期から、母親の子どもの学力や勉強に対するこだわりが強くなってきたといえる (p.115 図6-1-3)。

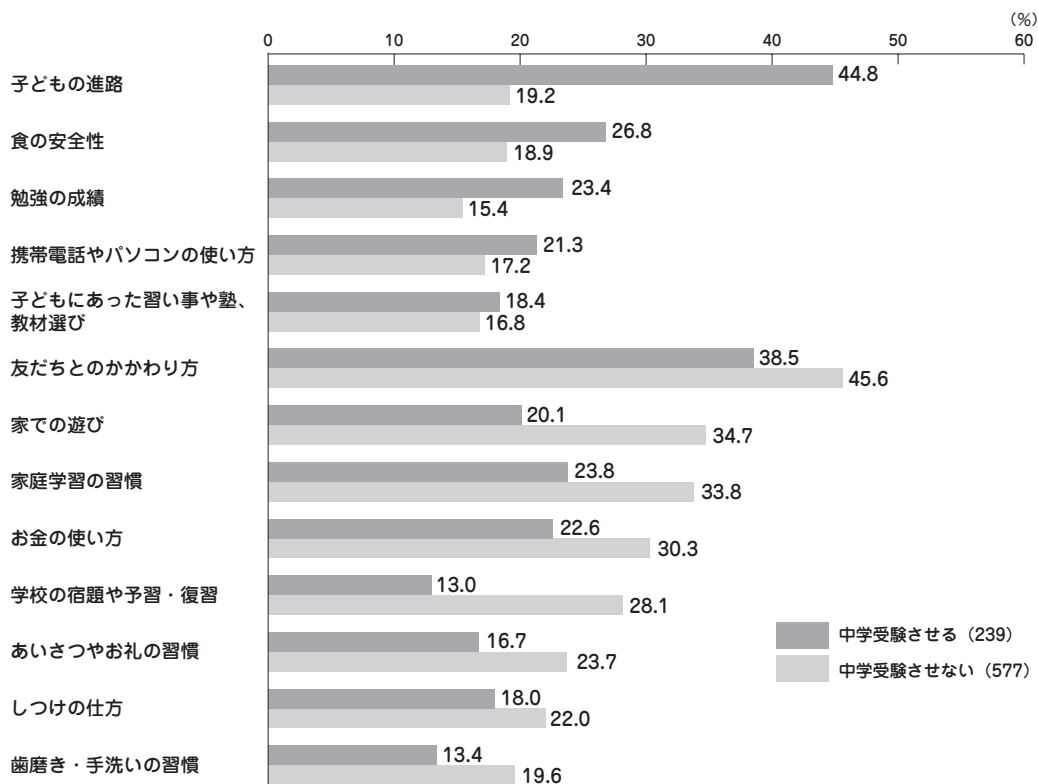
## ● 子どもへのかかわり

「子どもと一緒に出かける」の「よくある」

の比率(以下同)が中学年よりさらに13.1ポイント減少している。「子どもに一日のできごとを聞く」も9.7ポイント減少している。一方、「子どもと将来や進路について話をする」は9.2ポイント、「子どもと成績や勉強について話をする」は6.1ポイント増加している。親子のコミュニケーションは勉強や進路に関することが多くなっている (p.115 図6-1-4)。

子どもの学習へのかかわりをみると、「子どもが勉強していて分からないところを教えあげる」が3割弱に減少している(低学年6割弱→中学年4割)。一方、「学校のテストの点数を確認する」では、他の学年段階と比べて、割合が低めである。それでも約5割の母親が「よくある」と回答している (p.115 図6-1-5)。

図6-1-7 子育ての悩み・気がかり(小学校高学年・中学受験希望別)



注1) 複数回答。38項目中13項目を図示した。

注2) 「お子様に中学受験をさせますか」の質問に対する回答別に集計。「まだ決めていない」は省略した。

注3) 小学校高学年(小5~小6生)の数値。

注4) ( )内はサンプル数。





## ② 学年段階別にみられた母親の意識の経年変化と課題

①では各学年段階における母親の子育て意識と実態の違いを整理した。ここでは、さらに母親の意識の経年変化をまとめてみたい。

### ● 子どもの教育に対する不安が高まり、子どもへの関与が強まっている

表6-2-1は学年段階別に家庭の教育方針の経年変化をまとめたものである。「子どもの教育・進学面では世間一般の流れに乗り遅れないようにしている」「子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安である」「子どもがすることを親が決めたり、手伝ったりすることがある」をみると、すべての学年段階で「あてはまる」の割合（「とてもあてはまる」＋「まああてはまる」の％、以下同）が増加している。一方、「勉強のことは口出しせず、子どもにまかせている」は減少している。学力低下への懸念から、子どもの教育に対する不安が高まり、またその不安からか、勉強のことは子どもにまかせられない、子どもがすることについて親が手伝いをしてしまうといった傾向が強まっているといえる。

また「教育に必要なお金はかけるようにしている」をみると、02年調査の小学校低学年が6割だったのに対して、07年調査は7割に増えた。この割合は07年調査の中学年・高学年と同レベルである。低学年から「教育に必要なお金はかけるようにしている」母親が増えている。

### ● 基本的な生活習慣に関して、「一人で行える」が減り、子どもの自立に対する母親の満足度が下がっている

子どもの生活習慣について（表6-2-2）、「一人で行える」割合（「完全に一人で行える」＋「だいたい一人で行える」の％、以下同）が低学年を除き、中学年、高学年、中学生でほぼ減少している。低学年ではあいさつ

やマナーに関する項目が減少しているが、学習習慣に関する項目が増加傾向にある。小学校中学年から中学生までは「決まった時間に起床・就寝すること」「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」といった基本的な生活習慣だけではなく、「翌日の学校の用意や準備」などの学習習慣に関する項目も減少している。とくに、中学生に関しては、「計画的に勉強すること」が7.2ポイントも減少していることが気になる。低学年は学校生活への適応期にあるので、母親の要求がそれほど高くないのかもしれない。しかし中学年以上になると、学校生活に慣れてきたため、母親の要求が高くなったことも考えられる。

このようなことを反映してか、子どもの自立状況に対する満足度も低下している。かつ学年段階が上がるにつれ、下がり幅が大きくなるという傾向がみられた（表6-2-3）。

### ● 子どもおよび母親自身の成長を実感できる機会が少なくなった

「子どもが成長したと感じる」は、「よくある」と回答した割合が小学校低学年では5年間で、小学校中学年から中学生までは9年間で減少している。「子どもをもつことによって自分自身が成長したと感じる」は低学年では5年間で若干増加しているが、他の学年段階では9年間で減少している（表6-2-4）。

### ● データからみえてきた課題

これまで述べてきた学年段階別にみられた母親の意識の経年変化から、今直面している子育てに関する課題を大きく以下の2点にまとめたい。

#### 1) 学習と生活と、バランスのとれた子どもの成長

今回の調査結果から母親はかなり子どもの勉強に関心を寄せている一方、子どもの基本的な生活習慣に関する自立について「一人で

できる」という認識が低下している傾向がみられた。本来子どもの成長には学習だけではなく、生活習慣も含めた心身の自立、他人とのかかわりといった社会性なども必要である。しかし、今回のデータにみられたように、起床・就寝といった生活リズムが身につけていなかったり、家事の手伝いや整理整頓といった家族の一員としての役割が果たせなくなったりしている。母親が子どもの生活より学習に力を注ぎ、また子どもが学校だけではなく、家庭でも学習を中心に評価される傾向にある。子どもが学習以外のところで、本来もっているさまざまな能力を発揮しづらくなってきているように感じる。子どもが学習だけではなく、生活も含めたバランスのとれた、健全な成長ができる家庭環境づくりが必要ではないだろうか。

## 2) 子どもおよび母親自身の成長を実感できる子育て環境づくり

母親が子どもの教育に対して、一層熱心になり、懸命に子どもとかかわっているにもかかわらず、「子どもが成長している」、また「子育てを通して、自分自身が成長している」と感じる機会が少なくなっている。

よくいわれるように、子育ては親が子どもの成長発達を促しながら、親自身も成長を遂げていくという「育児は育自」でもある。そのような観点からみると、今回の調査結果からは母親が子育てに奮闘している様子がうかがえるが、子どもの成長を支える、さらに母親を含めた家族の子育てを支える社会全体の子育て環境は健全とはいえないかもしれない。

母親の教育不安を軽減し、子どもへの適切なかかわりができるように、国として、また社会全体として何をどのように支援したらよいのかを考える必要があるのではないだろうか。

表6-2-1 家庭の教育方針（経年比較 学年段階別）

	小学校低学年		小学校中学年			小学校高学年			中学生		
	2002年 (1,187)	2007年 (1,437)	1998年 (1,002)	2002年 (1,185)	2007年 (1,239)	1998年 (1,128)	2002年 (1,207)	2007年 (949)	1998年 (2,328)	2002年 (2,504)	2007年 (3,127)
子どものしつけや教育については夫婦で考えている	80.1	81.5	82.3	78.9	79.7	80.9	75.6	77.6	81.4	80.6	76.8
勉強のことは口出しせず、子どもにまかせている	33.9	25.5	41.4	40.5	30.9	49.4	49.1	38.0	52.9	51.8	44.9
子どもがどういふ友だちとつきあっているかを知るようにしている	93.8	94.9	93.4	93.2	95.5	92.0	93.1	96.0	91.1	92.0	93.8
親子で意見が違ふとき、親の意見を優先させている	66.2	65.6	52.4	60.9	65.9	51.3	59.9	58.2	42.0	51.0	52.4
子どもがすることを親が決めたり、手伝ったりすることがある	65.5	66.5	50.8	57.7	63.4	43.5	50.1	57.6	36.4	41.1	46.5
教育に必要なお金はかけるようにしている	60.0	71.1	63.6	63.4	71.6	68.0	68.7	73.6	75.4	77.6	79.0
子どもの教育・進学面では世間一般の流れに乗り遅れないようにしている	46.2	49.0	41.5	44.3	48.3	44.5	47.3	51.5	50.5	59.3	60.1
子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安である	40.4	45.9	39.2	43.0	47.4	43.0	46.7	49.7	44.2	50.9	53.9

注1) 数値は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の％。

注2) 1998年調査では小学校低学年の保護者は調査対象に含めていない。

注3) ( ) 内はサンプル数。

表6-2-2 日ごろの生活習慣（経年比較 学年段階別）

(%)

	小学校低学年		小学校中学年		小学校高学年		中学生	
	2002年 (1,187)	2007年 (1,437)	2002年 (1,185)	2007年 (1,239)	2002年 (1,207)	2007年 (949)	2002年 (2,504)	2007年 (3,127)
決まった時間に起床・就寝すること	59.6	60.7	67.0	63.1	71.4	65.7	73.6	69.5
あいさつやお礼を言うこと	80.1	76.5	86.2	86.1	89.4	89.0	93.8	92.3
食事のマナー	77.0	72.1	80.5	78.4	84.5	80.9	90.5	88.2
歯磨きの習慣	77.8	75.4	81.3	79.7	81.1	81.4	89.8	88.6
遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓	50.6	48.3	54.4	49.4	61.0	51.8	62.5	56.0
家事の手伝い	58.9	59.0	67.7	62.6	70.1	62.2	64.5	58.0
翌日の学校の用意や準備	78.6	82.9	89.1	84.7	88.6	88.1	92.2	87.4
約束を守ること	76.5	74.1	82.3	77.7	80.3	78.5	84.0	78.5
乗り物や路上などでのマナー	86.2	83.6	90.6	89.4	92.4	93.2	95.9	95.3
ていねいな言葉づかい	59.5	60.2	69.4	71.4	75.3	76.7	81.8	78.5
計画的に勉強すること	25.7	32.9	36.9	40.1	49.4	51.7	58.1	50.9
学校からのプリントを親に見せること	80.9	84.3	83.0	79.1	80.6	79.4	78.9	72.4

注1) 数値は「完全に一人でできる」＋「だいたい一人でできる」の％。

注2) 1998年調査では該当質問項目なし。

注3) ( ) 内はサンプル数。

表6-2-3 子どもの自立に対する満足度（経年比較 学年段階別）

(%)

	小学校低学年		小学校中学年			小学校高学年			中学生		
	2002年 (1,187)	2007年 (1,437)	1998年 (1,002)	2002年 (1,185)	2007年 (1,239)	1998年 (1,128)	2002年 (1,207)	2007年 (949)	1998年 (2,328)	2002年 (2,504)	2007年 (3,127)
とても満足している	4.6	4.9	5.4	5.1	4.4	7.8	7.2	6.4	7.4	6.2	5.1
まあ満足している	67.1	63.5	69.8	68.4	65.3	71.0	67.3	61.0	68.3	66.8	60.4
あまり満足していない	24.1	27.8	22.5	23.0	25.9	18.6	19.9	28.1	20.0	22.4	28.7
ぜんぜん満足していない	2.3	2.3	1.6	1.9	3.0	1.6	2.2	2.6	2.4	2.4	4.0
無答不明	1.9	1.5	0.8	1.6	1.5	1.0	3.5	1.8	1.8	2.3	1.7

注1) 1998年調査では小学校低学年の保護者は調査対象に含めていない。

注2) ( ) 内はサンプル数。

表6-2-4 子どもや自分の成長（経年比較 学年段階別）

(%)

	小学校低学年		小学校中学年			小学校高学年			中学生		
	2002年 (1,187)	2007年 (1,437)	1998年 (1,002)	2002年 (1,185)	2007年 (1,239)	1998年 (1,128)	2002年 (1,207)	2007年 (949)	1998年 (2,328)	2002年 (2,504)	2007年 (3,127)
子どもが成長したと感じる	65.7	59.2	73.4	64.6	56.3	78.1	63.5	59.3	73.2	64.3	55.8
子どもをもつことによって 自分自身が成長したと感じる	44.5	48.9	54.3	47.7	48.2	54.2	52.4	48.1	53.9	48.2	47.8

注1) 数値は「よくある」の％。

注2) 1998年調査では小学校低学年の保護者は調査対象に含めていない。

注3) ( ) 内はサンプル数。